

第4章

地域の行動

第4章 地域の行動

環境市民会議の取組

地域の環境を保全し、回復させるには、市の環境施策を推進するとともに、市民・事業者の自発的な環境保全活動が不可欠となってきます。

環境基本計画では、地区ごとにめざす環境の姿を定めるとともに、地区の環境の現状・課題を整理し、その解決に向けた主な取組などを「地域の行動」として示しています。この地域の行動は、環境市民会議によって策定されたものです。

本章では、環境市民会議が各地区においてそれぞれ調査した環境の現状と、一年間の活動や取組を報告します。皆さんが住んでいる地区の身近な環境について、「知る、考える、行動する」きっかけとなれば幸いです。

環境市民会議とは？

環境市民会議は、八王子市環境基本条例に基づき、市内を6地区に分け、各地区の市民・事業者によって自発的に環境保全活動を実践する組織として設立されました。市民・事業者が自ら、身近な環境について話し合い、地区内の環境をより良くするために行動しており、小・中学生を対象とした環境教育の支援や自然体験講座、省エネ教室、ごみの分別講座等の活動を行うなど、地域における環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

6 地域の位置図



中央地区環境市民会議が調べた環境の現状

中央地区は、えきまえテラスの完成や八王子駅南口集いの拠点の整備開始、また各地域におけるマンション建設の進行により変化しつつあります。中央を流れる浅川周辺は災害時でも安心して過ごせるよう整備され、市民の散歩、憩いの場となっています。その浅川において定期的にごみ拾いや生物の調査、水質検査等を実施することで、皆が気持ち良く過ごすことができ、景観を保つ努力をしています。しかし、人目に付きづらい箇所は、不法投棄やごみが残されている状況ですが、小学生向けの川の学習や自然観察会等を通し、誇れるまちにしていく活動を継続します。

中央地区の主な取組

①地球温暖化防止のためのライフスタイルの推奨

- ▶ 地球温暖化防止活動推進員として家庭グループの打ち合わせを実施
- ▶ 家庭の省エネ講座を4回企画するほか、学童保育所にて、地球温暖化防止の大切さについて楽しく学べる出前講座を計24回開催
- ▶ 中野七夕まつりなどで、温暖化防止について自分事としてとらえてもらうための周知啓発を実施



学童保育所での出前講座

②海洋プラスチック問題等環境負荷問題への対応

- ▶ 浅川河川敷において清掃活動を計4回実施し、延べ32名が活動
- ▶ 環境フェスティバル、市民センターまつり、いちよう祭りに参加し、ごみが環境負荷にならないような生活への転換について周知啓発を実施するとともに、海洋プラスチック問題についてクイズを用いて問題の大きさを伝え、普段の生活でなるべくプラスチックの依存を減らした生活を推奨
- ▶ 地区内の居住区域において、年2回、3地点を対象に簡易測定により二酸化窒素測定調査を実施



浅川・川口川での清掃活動

中央地区の主な取組

③エコひろば・八王子浅川水辺の楽校運営協議会と連動した環境教育活動の支援

- ▶ 総合的な学習などを活用した環境教育支援事業である「川の学習」について、小学校8校（参加児童数：542名）に対して支援を実施
また、「みどりの学習」について、小学校1校（参加児童数：23名）に対して支援を実施
- ▶ 川に関する基本的な知識を学び、市内小学校等の環境教育を支援する人材を養成する「川の学習サポーター養成講座」に講師として参加するほか、「川の学習支援者スキルアップ講座」への支援を実施
- ▶ 八王子浅川水辺の楽校運営協議会の活動支援として、ガサガサ探検隊やイベントでの支援を実施し、延べ25名が活動
- ▶ 浅川の野鳥観察やメタセコイア化石観察、小宮公園の植物観察などを行う「自然体験講座」を計4回（参加市民数：延べ66名）開催



「川の学習」の様子

④まちのみどりの保全

- ▶ 明神町なかよし公園のアドプト制度に登録し、第4小学校児童、町会などと協力した花壇の維持管理を実施
- ▶ 環境グリーンマップを600部増刷し、参加イベントで配布



「自然体験講座」の様子

中央地区の主な取組

⑤河川を対象に巡回・調査・保全活動

- ▶ 浅川、山田川などで河川巡回を計14回実施し、延べ21名が活動
また、河川巡回で見つかった課題別巡回（ごみ回収、監視、草花や野鳥の観察）を計16回実施し、延べ26名が活動
- ▶ 河川のごみ回収活動に延べ51名が参加し、可燃ごみ計63袋、不燃ごみ計15袋を回収
- ▶ 4河川を対象に河川調査（水質・水生生物）を計8回実施し、延べ23名が活動
また、浅川沿いの湧水集水溜り調査（流量・水質・水生生物）を計6回実施し、延べ15名が活動
- ▶ 調査地の自然環境保全活動として、草刈り・整備作業を計15回実施し、延べ45名が活動

⑥緑地保全活動への支援活動

- ▶ 館クリーンセンター内緑地保全活動（館さとやまクラブ）と連携し、場内の草刈り、枯れ木伐採、腐葉土作成、サクラの植樹、園路の整備、竹林の整備などを計14回実施し、延べ20名が活動
- ▶ 他地区の竹林整備作業支援を計2回実施し、延べ2名が活動

特色のある取組

- ▶ 中野北小学校の総合学習プロジェクトでビオトープ作成を支援
- ▶ 生涯学習フェスティバルにて木の实クラフトを実施し、八王子市における樹木の多様性についての認知を拡大



「河川の水質調査」の様子



「ビオトープ」水辺の環境づくりの様子

北部地区環境市民会議が調べた環境の現状

地区の東エリアは住宅地が広がっており、中には保全緑地として昔からの緑が保存されている箇所も見られます。西エリアは南・北加住丘陵に代表される豊かな緑が残っていますが、手入れが行われていない樹林地も存在しています。地区の中央には谷地川が流れ、上流では昔からの自然護岸が残っています。中流域では護岸工事が進められています。

また、中央エリアは国道16号・20号、16号バイパス、新滝山街道のほか、中央自動車道八王子ICも近く、交通の要衝となっています。近年は、大気汚染濃度は改善傾向にありますが、16号バイパスの一部ではまだ数値が高い地点が見られます。また、八王子IC北側では大型商業施設の開発が進み、交通量の増大が予測されているため、大気汚染の状況を注視しています。

大気や水質の測定を継続しており、改善が進んでいますが、近年では、有害とされる外来植物の拡散も確認されています。特にアメリカオニザミは、身体に直接的な被害を与えるおそれがあり、生長が早いニワウルシについても増加が確認できたので、在来種への影響や河川水害への影響も調査する必要があります。

北部地区の主な取組

①谷地川の調査と清掃活動

- ▶ 谷地川の水質調査（COD、pH、電気伝導度、水温、流量）を計4回実施
- ▶ 谷地川の環境を市民に理解してもらうため、環境フェスティバル及び石川市民センター文化祭で谷地川の生物を展示
- ▶ みんなの川と町の清掃デーと合わせて、地元自治会と協働して谷地川の清掃活動を実施

②緑地保全活動

- ▶ 地区内の環境活動団体と協働し、都の緑地保全地域及び市の緑地等（計6か所）で、保全・整備活動を実施



谷地川の調査地点(新旭橋)

北部地区の主な取組

③環境教育・環境学習などの推進

- ▶ 楽しみながら自然を体験し学ぶ場を提供するため、市内の他団体と協働して、大和田小学校、第八小学校、中野区在住の青少年を対象に、里山林の意義と活用の仕方を学ぶ活動を3回実施
- ▶ 大谷緑地において、東京都環境公社が主催する自然体験プログラム「里山へGO」について、他団体と協働し、計2回実施
- ▶ 東京都環境公社が主催する「東京グリーンシップ・アクション」に参加し、計6社の法人に対して、緑地保全活動の機会を提供
- ▶ 総合的な学習などを活用した環境教育支援事業である「川の学習」について、小学校1校（参加児童数：24名）に対して支援を実施
- ▶ 滝山城跡や二宮神社等を巡る「自然体験講座」を計2回（参加市民数：延べ30名）開催
- ▶ 八王子駅南口総合事務所において、環境市民会議・エコひろば合同開催の環境パネル展に参加し、地区の自然環境や取組について周知

④大気汚染測定

- ▶ 地区内の幹線道路などにおいて、年2回、45地点を対象に、簡易測定により二酸化窒素測定調査を実施



中央道脇のニワウルシ



八王子IC北で開発が進む商業施設

北部地区の主な取組

⑤地域との協働活動の推進

- ▶ 環境フェスティバルに出展し、大型モニターを活用した北部地区活動の紹介や外来種アメリカオニアザミの駆除活動を紹介
- ▶ 地域市民に活動内容や地区の自然環境について周知するため、加住市民センター及び石川市民センターで、パネル展示や谷地川の生物展示を実施
- ▶ 外来種である「アメリカオニアザミ」の駆除に向け、周知啓発用パンフレットを他地区の土地管理者へ配布するとともに駆除を実施



緑地での萌芽更新の説明

特色のある取組

- ▶ 外来種である「ニワウルシ」について、分布調査を行うとともに関係部署に情報を提供
- ▶ より効果的な情報提供や活動の認知向上に向け、北部地区環境市民会議のホームページを更新



北部地区環境市民会議のHP

西部地区環境市民会議が調べた環境の現状

西部地区は、西側から市街地に向かっていくつかの丘陵と北浅川や川口川が流れ、今熊山、金剛ノ滝、天合峰があり自然に恵まれた地域と言えます。これらの自然を守るため、大気汚染測定、川の水質調査、里山保全活動を行った結果、さまざまな生物が戻りつつあります。

当地区では「八王子市みどりの基本計画」に則り、八王子市景観100選に選ばれた「上川の里特別緑地保全地区」を環境教育の場として活用し、学習資料も兼ねたマップ作成も進めています。この里山は、四季折々の花が楽しめ、6月にはホタルが飛び交い、秋には棚田が黄金に輝き癒やされる場所です。

西部地区の主な取組

①環境教育の支援活動

- ▶ 総合的な学習などを活用した環境教育支援事業である「川の学習」について、小学校6校（参加児童数：368名）に対して支援を実施
また、「みどりの学習」について、小学校1校（参加児童数：9名）に対して支援を実施
- ▶ 式分方小学校の4年生を対象とした環境教育において、生ごみの減量や堆肥としての生ごみの再利用などを通じて、ごみ減量の意識を向上させるための学習支援を計6回実施（参加児童数：55名）し、延べ24名が活動

②自然体験講座

- ▶ 高尾の森自然学校での自然散策や晩秋の元八王子地区を巡る「自然体験講座」を計2回（参加市民数：延べ13名）開催



川の学習

西部地区の主な取組

③里山、河川、公園の環境保全活動

- ▶ 上川の里特別緑地保全地区において、田んぼの維持管理や上川口小学校の児童を対象にした稲作体験授業の支援、ホタル観賞会などを実施し、延べ15名が活動
また、市が主催する親山里山探検隊（参加市民数：26名）の実施に協力
- ▶ あらい公園の清掃活動を計5回実施し、延べ14名が活動
- ▶ 大沢川及び城山川の清掃活動を計6回実施し、延べ29名が活動

④河川と湧水の水質調査

- ▶ 「身近な水環境の全国一斉調査」に協力し、大沢川水系及び城山川水系10地点の水質調査を実施するとともに、地区内の湧水や大沢川水系・城山川水系11地点の水質調査を実施し、延べ6名が活動

⑤大気汚染測定

- ▶ 高尾街道、陣馬街道の主要道路付近を中心とした地点において、年2回、12地点を対象に、簡易測定による二酸化窒素測定調査を実施し、延べ16名が活動

特色のある取組

- ▶ 環境フェスティバルに参加し、「上川の里」の植物や昆虫、両生類などの貴重な写真や図鑑を展示・配布し、川口地区の豊かな自然をPRした



親山里山体験



上川の里における稲作体験授業支援

西南部地区環境市民会議が調べた環境の現状

高尾山は年間300万人が訪れる、豊かな自然や史跡などの宝庫です。当地区では、自然観察や環境パトロールを行い、植生・生きもの・景観・周辺の案内板などの変化を記録するとともに、保全関係者と情報交換の機会を作り、意義のある調査活動をめざしています。

湯殿川では、水辺環境の改善によって多様な水生生物が見られるようになり、蛍の生息域は年々広がっています。しかし、粗大ごみやプラスチックごみが多いため、地域と協力して川の清掃に取り組んでいます。一方、南浅川では、近隣の町会と協働で川床のごみ拾いなどを行い、水辺環境の改善に努めています。川の生きもの調査をスタートして3年目、南浅川は異常気象の影響で瀬切れが近年続いており、川の生態系にどのような影響を及ぼしているか定期的に調査を行っています。

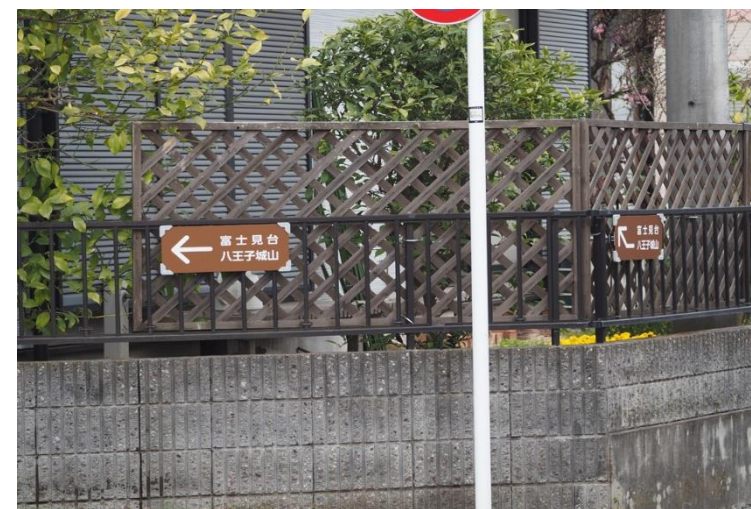
西南部地区の主な取組

①高尾山の環境保全活動

- ▶ 登山道の安全性や景観確保についてのパトロールを2回実施し、延べ12名が活動
- ▶ 裏高尾における道標設置について、提案会及び設置場所選定会議に参加するとともに新たに3か所に設置
- ▶ 高尾山の自然環境や生態調査に関する自然観察会を実施し、5名が活動
- ▶ 高尾山展望台の剪定説明会に2名が参加し、ブナの保護を確認

②地域の宝の掘り起こし

- ▶ 地区の巨木・銘木に関するマップを改訂し、各種イベントで配布



裏高尾小仏街道に設置の道標

西南部地区の主な取組

③里山の保全活動

- ▶ 親子向け里山体験や小仏川沿いの野草観察を行う「自然体験講座」を計2回（参加市民数：延べ35名）開催
- ▶ 館町緑地保全地域（池の沢）の動植物観察会を関係団体との協働により実施し、5名が活動
- ▶ 関係団体との協働により、池の沢におけるホタル調査を実施

④親しみのある水辺環境の構築

- ▶ 「身近な水環境の全国一斉調査」に併せて、7河川18地点の水質を調査し、5名が活動
- ▶ 湯殿川と南浅川の清掃活動に延べ15名が参加し、可燃ごみ3袋、不燃ごみ1袋、有害ごみ1袋などを回収
- ▶ 水辺の環境調査としてホタルの飛翔調査を35日間実施
また、特定外来生物「アレチウリ」の調査と定期的な駆除活動を実施し、延べ28名が活動
- ▶ 水生生物調査を計3回実施し、延べ9名が活動

⑤生活環境保全

- ▶ 地区内の幹線道路などを対象に、年2回、25地点を対象に、簡易測定により二酸化窒素測定調査を実施し、延べ12名が参加
また、5年分の測定データを取りまとめ、環境パネル展で公開
- ▶ 殿入中央公園周辺において不法投棄パトロール及び清掃活動を6名で実施し、可燃ごみ6袋、不燃ごみ3袋を回収



小仏川沿いの早春の野草観察会



湯殿川の清掃活動（みんなの町の清掃デー連携）

西南部地区の主な取組

⑥環境教育支援

- ▶ 総合的な学習などを活用した環境教育支援事業である「川の学習」について、小学校6校（参加児童数：484名）に対して支援を実施
また、「みどりの学習」について、小中学校各1校（参加児童数：222名）に対して支援を実施

⑦地域の活動との連携

- ▶ いちよう祭りにおいて発生するごみの分別指導や学生を対象としたごみ分別の事前説明会の開催など、計4日間で延べ20名が活動
- ▶ 環境フェスティバルや環境パネル展、3市民センター祭り（長房、横山南、浅川）に参加し、水生生物や活動内容を周知する展示を実施

特色のある取組

- ▶ 南多摩西部建設事務所と湯殿川及び南浅川の環境維持及び利活用に関わる協定を締結するとともに、湯殿川の不法投棄等の通報を5回実施
- ▶ 湯殿川の10橋に不法投棄防止を目的とした児童作成のポスターを掲示



環境フェスティバル（出展ブース）



湯殿川の10橋（児童作成ポスター掲示）

東南部地区環境市民会議が調べた環境の現状

数年前から発生し始めたナラ枯れの被害は深緑の中に枯れ木が点在し、強風で落枝や倒木の危険があります。この現象は長い間、手入れされなくなった里山の各所で見られ、継続的な山の手入れの必要性を感じます。また、雑木林に竹が侵入して里山としての維持が難しくなっています。手入れをする担い手が不足し、みどりの減少とともに深刻な問題です。

ここ数年の河川の状況は、浅川、湯殿川、兵衛川、山田川、寺田川の14地点で行った水質調査によると、COD値は1～3mg/Lを示し、きれいです。しかし、橋の下や河川に降りられる場所ではごみのポイ捨てが多く、モラルの悪さを感じます。その中にはプラスチックごみが多く、川から海へと流れ、マイクロプラスチック問題となっています。人間がしたことが魚だけでなく、水鳥や人体にも害を及ぼすのです。河川や町の清掃を地道ながら参加することでこの問題を自分事として捉えることが重要です。

大気汚染調査は年2回、地区内9地点を継続して行っていますが、昨年より良い傾向になっています。国道16号バイパス付近はやや上昇みで注視していく必要があります。

東南部地区の主な取組

①駅周辺のきれいさ評価や公園、川、町の清掃活動

- ▶ JR片倉駅や八王子みなみ野駅など地区内の6駅において、駅周辺の清掃及びごみの分類、数量を集計する「きれいさ評価」を年2回実施し、延べ15名が活動
- ▶ 公園アドプト制度を活用し、大塚山公園の清掃を年9回実施し、延べ30名が活動

②河川の水質調査と大気汚染調査

- ▶ 「身近な水環境の全国一斉調査」にて、5河川14地点の水質を調査し、5名が活動
- ▶ 地区内の幹線道路などにおいて、年2回、9地点を対象に、簡易測定により、大気汚染測定（二酸化窒素測定）調査を実施



水質調査の様子

東南部地区の主な取組

③環境フェスティバル・市民センターまつりへの出展

- ▶ 地域住民の環境への関心を高めるため、環境フェスティバルや市民センターまつり、環境パネル展で会の活動内容や地区内の自然環境に関する啓発活動を実施し、延べ34名が活動

④子どもたちに環境をテーマとした講座の開催・ 川の学習支援、みどりの学習の支援

- ▶ クールセンター八王子との共催により、太陽熱の実験などを行う親子向けの「ソーラークッキング」を開催（親子10組参加）し、8名が活動
- ▶ 総合的な学習などを活用した環境教育支援事業である「川の学習」について、小学校1校（参加児童数：41名）に対して支援を実施
また、「みどりの学習」について、小学校1校（参加児童数：39名）に対して支援を実施

⑤地域の自然や歴史の調査、勉強会、自然体験講座の実施

- ▶ 片倉城跡公園の草花観察や野鳥観察、宇津貫緑地の里山探検などを行う「自然体験講座」を計3回（参加市民数：延べ56名）開催

特色のある取組

- ▶ 宇津貫緑地において、新竹の整備や古竹の伐採などの竹林整備を継続して実施しており、参加者も増えている。令和7年度は3回実施。



自然体験講座



整備後の竹林と横断幕

東部地区環境市民会議が調べた環境の現状

東部（旧由木村）地区の北側は多摩丘陵が東西に走り、南側は多摩ニュータウンとして、それぞれにみどりの景観が形成されています。昭和57年に「南陽台の自然を守る会（現：多摩丘陵の自然を守る会）」が発足して以来、およそ40年に渡り、多くの住民の努力によって、多摩ニュータウン・由木の里山保全活動が続けられてきました。清浄な空気や水の供給源である、みどり連なる多摩丘陵の里山を維持することで、人の生活と多様な生きものの生活環境を守ることができます。環境省が指定する重要里地里山500のうち2か所が当地区にあり（都内では8か所）、別所にある長池公園（面積9.8ha）、堀之内にある堀之内寺沢里山公園（面積5.2ha）が整備されています。

また、同じく堀之内にある宮嶽谷戸においては、都から市に管理が移管されたことに伴い設置された市が管理する宮嶽池は、宮嶽池検討整備に関する地元懇談会（当会より委員を2名選出）での議論も踏まえ、一定の整備が令和6年に完了し、地域の新しい環境活動の場として利用が期待されています。

里山農業クラブ・八王子由木メカイの会を中心に活動してきたメカイ作りが令和5年3月に「南多摩のメカイ製作技術」として都の無形民俗文化財・生活技術の指定を受け「八王子由木メカイの会」が技術保存団体に認定されました。

東部地区の主な取組

①里地里山の保全活動

- ▶ 長池公園や沖ノ谷戸公園などの水田で、畔塗・代掻きなどの管理作業や稲刈り・脱穀などの収穫体験を子どもが参加可能な活動として実施
- ▶ 雑木林の整備推進のため、植樹や炭焼きを実施するとともに、会員の安全教育を実施
- ▶ 宮嶽谷戸にて自然体験や竹工作などを行う里山の自然体験会を東京都環境公社などとの協働により開催（参加市民数：20名）
- ▶ 地域の保全活動団体や学生ボランティアとの協働により、宮嶽谷戸や大柴原谷戸の整備活動を実施
- ▶ 地域の伝統的な民俗習慣の継承に向け、門松やしめ縄作り、どんど焼きなどを実施



宮嶽池

東部地区の主な取組

②豊かな緑の環境維持

- ▶ 地域の清掃活動として「みんなの町の清掃デー」、「みんなの川と町の清掃デー」に参加

③環境のモニタリング

- ▶ 由木地区内の居住区域において、年2回、6地点を対象に、簡易測定により二酸化窒素測定調査を実施
- ▶ 「身近な水環境の全国一斉調査」にて、大栗川や太田川など7地点での水質を調査

④環境教育の支援

- ▶ 長池公園にて、稲作と里山の自然についての学習を行う田んぼの学習を小学校1校に対して計5回実施
- ▶ カイコの飼育や絹に関する文化について学ぶカイコ・シルクに関する学習を小学校3校で実施
- ▶ 東京都指定無形民俗文化財（民俗技術）であるメカイ製作技術について、小学校1校での講話及び実演会を実施



みんなで楽しんだ代掻き



里山（宮嶽谷戸）のヤマユリ

東部地区の主な取組

⑤市民による豊かな自然の理解の増進

- ▶ 樹木マップやみどりの道のマップなどの各種マップや地域の動植物に関するクリアファイル・写真はがきなどを発行
また、「由木地区里山の植物誌」や「由木地区 里山の野鳥」などのリーフレットを作成し、市民センターまつり等で配布
- ▶ 多摩丘陵の植物観察などを行う「自然体験講座」を2回（参加市民数：延べ52名）開催
- ▶ 活動の成果などの周知のため、ウェブサイトの定期的な更新を実施
- ▶ 長池公園にて、絹や和紙など里山の文化に関する体験イベントを多数開催

特色のある取組

- ▶ 毎月、会員又は外部の方を講師として、環境に関する学習会を開催



「由木地区 里山の野鳥」の表紙

令和7年度における環境市民会議各地区の活動実績に基づき、地区の活動実績をその地区で総括的に評価したものと、その評価に対する環境推進会議での意見を掲載しています。

<中央地区環境市民会議での総括評価>

今までの取り組みを継続実施、発展させてきた。今年度は、初めて実施する活動も多く、充実した活動が出来た。ビジネスチャットツールを連絡や資料掲載で活用することで、ペーパーレス化と郵便料金の削減、会員の負担軽減を図れた。

<北部地区環境市民会議での総括評価>

豊かな緑や安全・安心な環境を守るため、地区の取組に加え、パトロールを実施した結果、生活を脅かす外来植物の侵入が進んでいることが目立った。特に「アメリカオニアザミ」については、土地の管理者や関係部署に通報することで認知を進めたことが評価できる。また、「ニワウルシ」の侵入・繁殖が多数確認され、河川敷での駆除が困難なため、水量が増加した際に河川の流れを阻害し、被害の増大につながるということが予測されることから、早急な対応の認知を広めたことは評価できる。

<西部地区環境市民会議での総括評価>

西部地区は広大であるため、地域会員の補強が早急に必要。高齢化からも、今後は地域自治会などと連携し、会員増強の活動を実施していかなければならない。

<西南部地区環境市民会議での総括評価>

高齢等の理由から常時活動できる会員は10名以下になり、いちょう祭りのごみ分別と大気汚染測定は今期をもって停止するが、少ない会員で活動を継続することは厳しくなっている。ただ、後期に2名の若い方が入会し期待している。新しいテーマとしてツマグロキチョウの保護活動を検討中。このチョウの食草であるカワラケツメイの確保などに担当する公的機関の許可が必要であるため、市の協力をお願いしたい。

<東南部地区環境市民会議での総括評価>

全体的に計画通り進めることができた。自然体験講座や市民センター祭では市民との交流ができたが、市民会議の認知度が低く、会員が高齢化しており、新会員も増えていない課題もあった。

<東部地区環境市民会議での総括評価>

全体的に高齢化が進む中、皆元気に活動継続できたことは評価に値すると思う。活動することを楽しめるように心掛けていきたい。

<環境推進会議の意見>

- ・各地区の活動について、市民会議の参加人数などに制約がある中、地域の実情に応じた課題の解決に向けた取組を着実に実施している点が評価できる。
- ・各地区が実施している調査の結果について、地区間及び行政との共有体制を整備し、得られた知見を有効活用することで、更なる活動の促進が期待される。